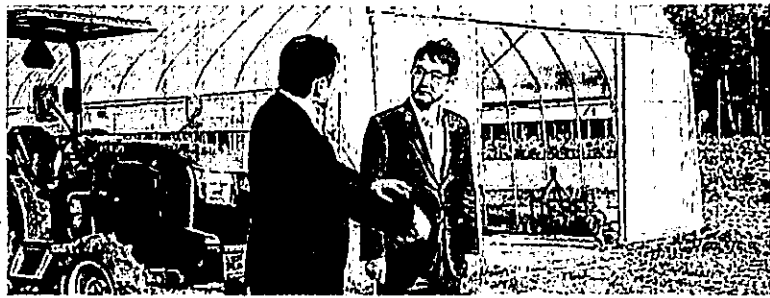


北海道新聞



出所後の就農定着を

河井法相 帯広刑務所など視察

第4次安倍再改造内閣で初入閣した河井克行法相が

30日、就任後初めての視察先として帯広刑務所などを訪れた。受刑者を円滑に就農に結びつけるため本年度から同刑務所で始動した全国初の「農業モデル構想」の視察が主。視察後、記者団に対し「数年以内に受刑者を就農に結びつけ『帯広

帯広刑務所のフェンス付き農場を視察する河井法相(右)

井上浩明撮影

モデル』として定着するよう支援したい」と述べた。農業モデル構想は、態度

が良好で農作業に従事できる受刑者を対象に、段階的に塀のない農場で作業させ、出所後の円滑な就農を目指す取り組み。国の再犯防止推進を目的としたモデル事業に選ばれ、始動した。トラクターなど大型特殊免許の取得も支援する。

既に1期生4人が活動し、6～9月に工場での作業訓練を終えた。10月から

は第2段階の取り組みとして、同刑務所のフェンス付きの農場で農作業を始める。本年度中にはいずれも塀のない同刑務所の別府農場や網走、旭川西刑務所の農場に移行を目指す第3段階に入り、数年以内の就農を実現させる考えだ。

帯広刑務所によると、受刑者を段階的に開放的な環境で作業させることで、逃走の可能性や出所判断などをより慎重に見極められる

利点があるという。

河井法相は事業の核となる同刑務所のフェンス付き農場に加え、受刑者の居室なども視察。また同刑務所に先立ち、帯広地区更生保護サポーターセンターを訪れ、保護司らと意見交換した。

(広田まさの)